



学校だより

No. 4 さいたま市立神田小学校
令和7年6月30日発行 Tel (853) 4377
URL : <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

チャンスにチャレンジしてチェンジする

校長 中村 誠

6月7日、今年度も運動会を無事に行うことができました。子どもたちの熱中症対策のため各クラスにテントを設置しましたが、その設置には保護者の皆様に多大な御協力をいただきました。改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。運動会では、少しでも順位を上げようと一生懸命走る姿、仲間と協力して団体競技で競り合っている様子、息のあったダンスや表現活動、そして一生懸命バトンをつないで走ったりリレーなど、至る所で子どもたちの頑張りをみることができました。まさに、子どもたちがチャンスにチャレンジしてチェンジする姿を見ることができた運動会だったといえます。

令和7年度の学校経営方針に「チャンスにチャレンジしてチェンジする子」を目指す子どもたちの姿として掲げさせていただきました。昨年度の学校だよりにも書かせていただきましたが、この言葉は、子どもたちにわかりやすく、そして端的に、大事なことを伝えた素晴らしい言葉だと思っております。子どもたちが、これからの未来をよりよく生きるために「チャンスにチャレンジしてチェンジする」という言葉を前面に出して教育活動を進めてまいります。

先日、朝の情報番組で明治大学の齊藤孝教授が「ピンチはチャンス」という言葉について解説していました。齊藤教授は、この言葉を「単なるポジティブ思考な言葉ではなく、実践的な生き方の知恵」として紹介しています。まず、ピンチを「自分を見直す機会」として捉え、困難な状況に直面した時こそ自分の行動を見直すチャンスであること。次に、ピンチになって焦ったり落ち込んだりするのではなく、「このピンチは何を教えてくれているのか？」と問い直し「ピンチはチャンス」と感情を切り替える思考をもって、次の行動を変えていくこと。さらに、ピンチの中には新たな可能性があって、今まで気が付かなかったアイデアが詰まっていることを紹介し、最後に、この言葉を単なる励ましの言葉として捉えることなく人生を前向きに切り拓くための実践的な哲学であることを語っていました。私は、この番組を見て「チャンスにチャレンジしてチェンジする」という言葉も「ピンチはチャンス」と同様の意味と意義があると強く感じました。どちらの言葉も大事な言葉であり、子どもたちだけでなく、私たち大人にも必要な言葉だといえます。私自身も、チャンスにチャレンジしてチェンジして頑張っていきたいと思います。

さて、早いものでもうすぐ夏休です。夏休みは普段の学校生活では経験できない貴重な時間であり、「チャンスにチャレンジしてチェンジする」絶好の機会です。今年度は、そのためにあえて自分で選択する課題を多くしました。夏休みに入る前に、御家庭でどんな夏休みにしていきたいか、お子様と話し合う時間を取ってみませんか。「家のお手伝いではなく、夏休みの間は仕事として〇〇に取り組む！」「旅行も兼ねて、旅先で色々なことを体験してみる！」

「今までやったことない夏休みのコンクールに挑戦してみる！」など、様々な機会（チャンス）にチャレンジしてチェンジした子どもたちに、2学期の初めに会えることを心より楽しみにしております。